

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》染木 布充（非）

【概要】

「我思う、ゆえに我あり」のデカルト、「法の精神」のモンテスキュー、啓蒙主義のヴォルテール、「存在と無」のサルトル、「表徴の帝国」のロラン・バルト、EU設立の立役者のジャンモネ等々枚挙に遑がないほどの逸材をフランスは輩出した。フランスは合理性を重んじる思想・文化大国である。お隣のスイス・フランス語圏からは「社会契約論」のジャン=ジャック・ルソーや構造主義に圧倒的な影響を与えた言語・記号学のソシュールが出ている。「自由・平等・人権」は言うに及ばず、フランスが打ち出した現代的価値観は今も世界に影響を与え続けている。他方、フランスというとファッションやワイン等の食文化で知られ、「男と女」「個人教授」等数々の名作を世に問うている。フランス語の修得を通して、邦訳ではなく直接フランス語でフランス文化の包容力に接近する。そのためには論理的なフランス語文法の理解が必須条件となる。

【学習目標】

1. 発音のスキルを身につける
2. 基本文法をしっかりとおさえたうえで、ワンランク上の文法にチャレンジする。
3. 話せるフランス語力を身につける。具体的には、「ご気分はいかがですか?」「どこが痛いですか?」「次回のアポイントメントは来週の～曜日です」「ご出身はどちらですか?」「書類に不備はありませんか?」というような文を躊躇なくいえるようにする。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	発音の復習	母音、子音、鼻音を発音できる。	染木
2	「いいえ。わたしはフランス語はちょっと話しますよ」	微妙な肯定文と否定文を作ることができる。数の数え方、曜日、季節の言い方、前置詞の復習。	染木
3	第一群規則動詞、第二群規則動詞、第三群（不規則）動詞	aimer, aller, finir, prendre等主要動詞の活用をマスターし、フランス語の表現領域を広げることができる。主に第1文型を復習する。	染木
4	冠詞の全体像を把握する	否定文と冠詞の関係を理解し、冠詞を正しく使うことができる。主に第2文型と第3文型を使いこなすことができる。	染木
5	面倒な活用を避ける時制	近接過去時制と近接未来時制を使い分けることができる。	染木
6	「彼は道に迷ったに違いない」 「わたしはいつも朝散歩しています」	複合過去、準助動詞、代名動詞を理解し、立体的な表現ができる。	染木
7	「比較級」	「比較」のポイント（形容詞と副詞と名詞）をおさえ、比較表現ができる。	染木
8	前置詞と前置詞句	前置詞が示す限定関係の理解を深め、適切な表現ができる。	染木
9	中間小テスト		染木
10	時間の聞き方「何時ですか?」	疑問形容詞を使えるようになる。	染木
11	「彼女の名前はなんというのですか?」	主に所有形容詞を学び、相手の名前を聞くことができ、自己紹介ができるようになる。	染木
12	等位接続詞と従位接続詞	主に接続詞のqueを学ぶことで表現の幅を広げることができる。	染木
13	関係代名詞	主に関係代名詞のqueとquiを学ぶことで表現の幅を広げることができる。	染木
14	代名動詞の復習と自己紹介	「わたしは散歩します」「わたしは～といます」という言い方をマスターすることができる。	染木
15	総復習	基礎会話を復習する。	染木

【評価方法】

定期試験 90%（ただし、ノートのみ持ち込み可） 平常点 10%

【備考】

教科書 : 随時プリントを配布する。

参考書 : 特になし。

その他 : 辞書の購入（種類は問わない）。

【学習の準備】

内容が分からなくとも、インターネット等を利用して、普段からフランス語に接するように心がける。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP5,4

【実務経験】

M&Aが盛んに行われる国際ビジネスの現場でフランスの主要企業の日本法人においてマーケティングや広報等の責任者、後に金融テクノロジーを駆使する高度に複雑化した国際金融界でフランスの銀行の駐日首席代表を務めた。

【実務経験を活かした教育内容】

国際金融（ビジネス）マンとしての実務経験を通じて得た知識・態度等を活用し、ヨーロッパ（EU）の思考フレームワークに通じる実践的教育を行う。具体的には、フランス語交渉力の基礎を培うことでボーダレス化に対応する。